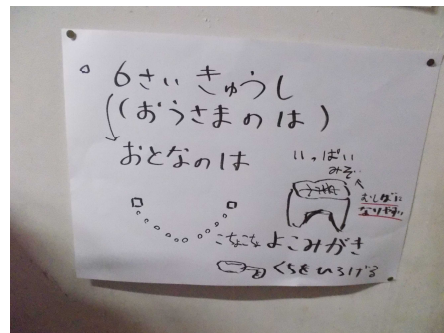
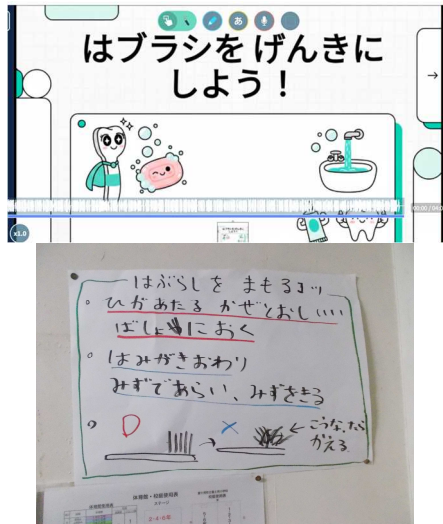


学校名 富士見小学校	学年 1 学年
授業者氏名 奥原 健斗	
題材名 「 歯の王様と歯ブラシをまもろう 」	
主 眼<フォーマット> 〇〇について学んだ (or 体験した・調査した) 子どもたちが (既習や経験)、〇〇に着目し (健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方)、〇〇することを通して (本時の中核的な学習活動)、〇〇する力 (育成する資質・能力) を培うことができる。	
主 眼 歯科衛生士の先生から 6 歳臼歯を守るための磨き方や、歯ブラシの正しい使い方・管理の仕方について学んだ子どもたちが、6 歳臼歯の生え方や歯ブラシの状態に着目し、鏡で自分の口の中を確かめたり、歯ブラシを守るための動画を見たりして、歯と歯ブラシを大切にする方法を考えることを通して、自分の歯を健康に保つためにできることを実践する力を培うことができる。	
学習材 (本時、子どもに提供する最大の情報：実践家や専門家の話の要点・KYT のイラスト等) 歯科指導での歯科衛生士の先生からのご指導の内容 動画「歯ブラシをげんきにしよう！」	
成 果 ① 鏡を使って自分の口の中を見ながら、6 歳臼歯の位置や生え方を確認し、歯の王様と呼ばれる理由について理解を深めることができた。 ② 6 歳臼歯は奥にあるため磨きにくいことに気づき、歯ブラシの向きや動かし方を意識して磨こうとする姿が見られた。 ③ 歯ブラシを守るための動画を視聴し、毛先が広がった歯ブラシは交換することや、正しい場所で保管することの大切さに気付くことができた。 ④ 学習を通して、自分の歯や歯ブラシを大切にし、これからも健康な歯を守っていこう	



とする意識を高めることができた。



課 題

6 歳臼歯を実際に鏡で確認することで、自分の歯への関心を高めることができた一方、奥歯をどのように磨けばよいのかを具体的にイメージすることが難しい児童も見られた。

今後は、歯ブラシの持ち方や動かし方を実際に確認する時間を設け、一人一人の磨き方を見届けながら、6 歳臼歯を意識した磨き方を身に付けられるようにしたい。また、歯ブラシの交換時期や保管方法についても、家庭と連携しながら継続的に意識できるようにしていきたい。

【授業実践振り返りカード】 9月

学校名 富士見小学校	2 学年
授業者氏名 高橋 準	
題材名 「歯や口の健康向上大作戦！」（生活科）	
主 眼<フォーマット> 〇〇について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、〇〇に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、〇〇することを通して（本時の中核的な学習活動）、〇〇する力（育成する資質・能力）を培うことができる。	
主 眼 歯に関する受診率の向上を目指している子どもたちが、子どもが歯医者さんに行きやすくなる状況に着目し、他のクラスにお手紙を書く活動を通して、富士見小学校の歯や口の健康をよりよくしようとする態度を培うことができる。	
学習材 （本時、子どもに提供する最大の情報：実践家や専門家の話の要点・KYT のイラスト等） ・ 毎日のふり返し（チェックシートで可視化）	
成 果 ・ 学年に応じた書き方（相手意識）を考える児童がいた。 ・ どうすれば伝わるかを話し合って書くことができていた（自分ごととして活動）。 ・ 富士見小学校の受診率の結果は、昨年度よりも少し上がった。2 学年は 92.9% と高かった。	
課 題 夏休み前に実行できていれば、2 学年のように、他学年の受診率をもっと上がったかもしれない。	

【授業実践振り返りカード】 9月

学校名 富士見小学校	3 学年
授業者氏名 星野 こず恵	
題材名 「見ても元気、食べても元気、ひまわり大作戦 ～カミカミ実験をして、よくかむとどんないいことがあるか見つけよう～」	
主 眼 自分たちが育てた食用ひまわりの種を食べると歯と口や体の健康によいことを知った子どもたちが、よく噛んで食べるよさに着目し、5回、10回、30回と噛む回数を変えて少量の白米を食べたときの味や硬さ、様子の変化を観察したり、噛むことによる健康への効果について栄養士の話の聞いたりすることを通して、30回噛むとより唾液が出て甘みが増したり飲み込みやすくなったりすることに気づき、普段の食事でもよく噛んで食べようとする事ができる。	
学習材 ・ 一口分の白米 ・ 回数ごとに味、硬さ、様子を観察するための鏡とワークシート ・ 栄養士の話（ひみこのはがいいぜ）	
成果 ・ ひまわりの種の中身を見て「米粒くらいの大きさで味がするのかな」という子がいたり、普段の給食で「ごはんは味がしないから、おかずがないと食べにくい」という子がいたりしたので、白米を用いて噛んだときの味、硬さ、様子を観察したが、「噛んでいたら甘くなった。」という子がいたり、鏡を見ながら「30回噛むと、どろどろに変化した。」という子がいたりして、よく噛むことでおきる変化を実感できた子が多かった。 ・ 白米 1 粒で試しても甘みや形の変化を感じた子が多く、よく噛むと小さな物でもしっかり味わうことができることに気づくことができた。また、「いつもはカミカミゴックンくらいで飲み込んでいたけど、30回ってこんなに噛むのだと思った。」と普段の咀嚼を振り返って比べている様子も見られた。 ・ 栄養士からは「ひみこのはがいいぜ」を中心に噛むことのよさをお話いただいた。自分がカミカミ実験で気づいたことと照らし合わせながら、噛むことのよさを確認することができ、給食でも、噛むことを意識して食べている様子が見られた。 振り返りより ○ いっぱいかむと、どんどんあまく感じました。5回噛んで見たら、まだお米の形のままでびっくりしました。 ○ かむと、だえきがいっぱい出てくるのがわかった。ぼくは、だいたい20回くらいでだえきがよく出た。 ○ お米とつばがまざってトロトロになった。交互に噛むようにしたら左右のおくばをつかってかむことができた。 ○ 足をつけて、おさらをもてば姿勢がよくなる。30回噛んで、むし歯にならないように、つばががんばってくれたらいいです。	
課題 ・ 授業の初めにスマイル MFT の熊谷周子先生に教えていただいた、効果的な噛み方ポイント（①足をしっかりついて姿勢よく ②口をとじて、左右両方で噛む ③30回噛む）も改めて振り返ったが、普段の給食の様子を見ていると足を床につけていなかったり、姿勢が乱れたりしている子もいる。噛む行為以外の体の様子にも目が向くようにしたい。 ・ 今回は、食用ひまわりの種と結びつけることはできなかったが、白米 1 粒を食べて「ちゃんと噛めば本当の味がわかったから、ひまわりの種もちゃんと噛んだ方がいいね。」という声があったので、今後、食用ひまわりを用いた学習にいかしたい。	

【授業実践振り返りカード】 9月

学校名 富士見小学校	4 学年
授業者氏名 野田 直美	
題材名 「ひまわり油とにんじんを使った お年寄りに合う 歯に良いレシピを考えよう」	
主 眼 紅林荘のお年寄りとの2回の交流会でお年寄りへの理解を深めた子どもたちが、お年寄りの食べやすさや調理環境などの条件に着目し、紅林荘の方からの情報や自分たちで見つけたレシピづくりのヒントをもとに、班で考えたひまわり油とにんじんを生かしたレシピを発表・比較し合うことを通して、相手の状況に応じた健康的な食生活を主体的に構想し、交流会で試作するレシピを決めることができる。	
学習材 ・紅林荘の施設の方から教わった「お年寄りが食べやすいもの」 ①やわらかい ②〇あまい・すっぱいもの ×しょっぱいもの（血圧が上がってしまうため） ③にんじん 〇すりつぶす ×つぶつぶ・カリカリ・ザクザク・モチモチ（喉に詰まる危険あり） ・自分たちが見つけたレシピづくりのポイント ①にんじんが苦手な人がいる→にんじんが苦手な人でも食べられるようなレシピを考える ②おやきは食べられる ③バナナアレルギーの人がいる→火を通せば食べられる ④にんじんとひまわり油の味が分かるように、色々な材料を入れすぎない。 ・「紅林荘にある調理用具」 ボウル まな板 電子レンジ ホットプレート 包丁 さいばし	
成 果 ・紅林荘に勤める保護者を持つ児童の事前調査（お年寄りが食べやすい工夫や使える調理用具）により、お年寄りに寄り添った実現可能なレシピづくりの視点をクラス全体で深く共通理解することができた。 ・子どもたちは、「柔らかく、にんじんが苦手な人でも食べられるもの」かつ、「にんじんのよさ」を生かしたレシピにしたいと考え、ネット上にあるレシピから良さそうなものを探し、砂糖を使うものは「はちみつ」を、油を使うものは「ひまわり油」を代用するなど、今までの経験をレシピづくりに反映させながら、班で協力してプレゼン資料を作っていく姿が見られた。 ・発表の中で、「ラカント S」「エリスリトール」という、むし歯菌が好まない歯にいい天然甘味料を使ったレシピを紹介した班があり、はちみつ以外にも歯にいい甘味料があることを知ることができた。 ・各班の発表を聞いた後、子どもたちから次のような質問が出された。 「にんじんは皮にも栄養があるから、すりおろすなら皮をむかなくてもいいと思います」 「バナナアレルギーの人がいるけれど、火は通しますか？」 「エリスリトールは歯にいい甘さですか？」 「噛まなかったらにんじんの噛む良さがなくなってしまうませんか？」など、 どれも「お年寄りの体や歯にとって本当に良いものか」を本気で判断しようとする質の高い質問で、相手を思いやる子どもたちの思いの強さが感じられた。	
課 題 タブレット端末を使ってレシピを探したが、図書館の本も利用するとよかったように思う。 「とろけるプリン」を試作することになり、実際にレシピ通りに作っていったが、薄い輪切りにしたにんじんを電子レンジで温めても、レシピにあるようには簡単につぶすことができなかった。電子レンジで何回も温め直したり、つぶす道具を変えたりしたが、手作業ではつぶせなかった。ミキサーを代用することで細かくはなったが、つぶつぶ感が多く残ってしまった班が多く、お年寄りにとって食べやすいものはできなかった。 ネット上にあるレシピの不確かさを実感した試作となった。 その点、本は専門家による検証を経て出版されているため、情報の信頼性が高い。情報収集の際には、手軽に調べられるネットだけでなく、本などの確かめられる情報も併せて見比べながら、「本当にこの作り方で大丈夫か」と自分たちで一度立ち止まって考える力を育てていく大切さを実感した。	

【授業実践振り返りカード】 9月

学校名 富士見小	学年 5年1部
授業者氏名 千野 孝幸	
題材名 「 8020運動を推進しよう 」	
主 眼<フォーマット> ○○について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、○○に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、○○することを通して（本時の中核的な学習活動）、○○する力（育成する資質・能力）を培うことができる。	
主 眼 学校医から発表資料についてアドバイスをもらった子ども達が、より専門的な知識や自分たちが知らなかったことについてのアドバイスに着目し、パンフレットやプレゼン資料を修正する活動を通して、新たな課題を解決する力を培うことができる。	
学習材 （本時、子どもに提供する最大の情報：実践家や専門家の話の要点・KYTのイラスト等） 学校医からいただいたアドバイスをメモしたもの・CANVAで作成した資料	
成 果 ・自分たちだけでは気づくことができなかった視点に気づくことができた。	
課 題 ・パンフレットに実際にすることを意識したときに、資料のページが多すぎてしまうことが分かった。今後、子ども達がまとめたものをA3サイズ1枚程度にまとめられるようにしたい。	

【授業実践振り返りカード】 9月

学校名	富士見小学校	学年	6 学年
授業者氏名 渡邊 貴宏			
題材名 「 見直そう、自分の歯みがき ～歯科検診に向けて～ 」			
主 眼<フォーマット> 〇〇について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、〇〇に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、〇〇することを通して（本時の中核的な学習活動）、〇〇する力（育成する資質・能力）を培うことができる。			
主 眼 歯みがき週間にみんなで時間を守って取り組んだ子どもたちが、みんなで意識を高め合う工夫や自分の歯の状態を確かめて磨くことの重要性に着目し、シールを用いた取り組みの振り返りや歯科健診に向けた自己点検を行うことを通して、健康な歯を保つために自ら行動しようとする力を培うことができる。			
学習材 ・ 歯みがきチェックポスター（シール） ・ 手鏡 ・ 歯ブラシ ・ 歯みがき動画			
成 果 ・ 歯みがき週間において、ポスターへのシールを貼るトークンがあることで、児童同士で声を掛け合う姿が見られた。集団での意識化・習慣化を図ることができた。 ・ 歯科健診前に手鏡を用いて自らの歯や口の状態を確認させたことで、ただ磨くだけでなく「より丁寧に磨こう」とする姿が見られた。			
課 題 ・ 友達からシールを貼るよう声をかけられたが、それに対してあえて一步引いた立ち位置を取ろうとする児童が数名見られた。成長段階に応じたアプローチを取り入れていく必要性を感じた。			